

事業概要と 写真で見るポッポおひさま発電所の あゆみ

2004. 2
鴻池ポッポ福祉会より「第2保育園に太陽光
発電設置」についての協力要請あり

2004. 7. 18
自然エネルギー市民の会 設立総会

2005. 3. 18
特定非営利活動法人
自然エネルギー市民共同発電 設立総会

(関連記事 1.8面)

太陽光発電所概要

機種：京セラ製 SPR167-10
仕様：多結晶 167W/枚
出力：10.02kW(60枚)
予想発電量：10,000kWh
CO2削減量：6.9t
(0.69kg-CO2/kWhで算出)
発電量算定条件
・方位南向、傾斜角20°での大阪地方の
月平均日射量・強度を使用(NEDO)
・温度補正(気象庁年報99)及び回路ロ
スなどの諸係数(電気学会)を考慮
総事業費：1,150万円



2005. 11. 29
記者発表(東大阪市政記者クラブ)

2006. 2. 11 ~ 12
パネル取り付け工事



架台据付



パネルの裏に記名



2006. 2. 18 ~ 19
インバータ・記録表示装置設置工事

2006. 2. 22 関西電力系統連系



2006. 3. 10 掲示板設置工事



2006.3.11 点灯式

2005.3.27 計画へ拍車



ポッポ第2保育園竣工式で
「この屋根に市民共同太陽光発電所の
設置を!!」

2005. 8. 10
特定非営利活動法人
自然エネルギー市民共同発電設立 認証

2005. 8. 11 申請 2005. 9. 14 採択
大阪府「府民共同発電所推進事業」
補助金

2005. 9. 26 申請 2005. 11. 25 採択
NEDO「太陽光フィールドテスト事業」
補助金



2005. 9. 6
ポッポ第2保育園と協議会開催



各地でPR活動
2005. 10. 16 東大阪市民まつり
2005. 11. 03 大阪いずみ生協・自然体験企画
2005. 11. 13 大阪府環境フェスティバル 21
2005. 11. 27 鴻池フェスティバル
2006. 2. 18 生き生き地球館・環境学習会



熱のこもる現地説明会
2005. 11. 27 第1回
2005. 12. 03 第2回
2006. 01. 07 第3回



かろ 賀露物産展・太陽光発電実験で盛り上がった点灯式

(1面から続く) 多くの参加者が集う園庭では、ビニールプールの中に設置した噴水が太陽光発電によって勢いよく吹き上げていた。太陽光を遮ることにより噴水の勢いが変わることに子供達は興味を示していた。



元東大阪市民で現在、鳥取市の賀露で漁師をしている河西さんの大漁旗を飾った会場で、賀露おやじの会が開催した物産展では、新鮮なカレイ、ハタハタ等の海産物や野菜の即売、試食会に多くの人が群がり賑わっていた。その傍らでは、鮭の戻ってくる川を取り戻そうと鳥取の川に放流する予定の鮭の稚魚の展示もあり、大阪では見られない光景だけに参加者は興味津々であった。

賀露おやじの会の皆さんには点灯式を大いに盛り上げていただいた上に、売り上げの一部をご寄付いただいた。

最後に関係者全員で、第2、第3の市民共同発電所の建設を誓って記念写真を撮った。

終了後、会場を移して行われた交流会では、「子どもが出来たら太陽光発電所のある保育園に入れます」と熱っぽく語るお嬢さんも現れた。最後に園の宮村事務長の「園は地域に支えられてきた。これからも、そして、使用するエネルギーも、地域で出来ることは地域で」とのご挨拶をいただき、お開きとなった。

(関連記事7面)



海外視察研修

デンマーク～アイスランド

出発は5月29日

主な行程概要は以下の通りです。

- 5月29日 伊丹空港発～成田経由コペンハーゲンへ
- 30日 デンマーク“風の学校”、バイオマス、資源リサイクル
- 31日 風力発電メーカー、サムソ島自然エネルギー自給プロジェクト
- 6月 1日 サムソ島、コペンハーゲンからアイスランドへ
- 2日 アイスランドエネルギー省、地熱発電、燃料電池
- 3日 プレート断層ギャウ、氷河地帯、フィヨルドなど
- 4日 レイキャビク市内
- 5日 レイキャビク発コペンハーゲン経由帰国へ
- 6日 成田着

費用は現在42～45万円です。なかなか行くチャンスのないアイスランドを含めてのこの価格はリーズナブルなラインと思いますが、40万円切る条件を求めて細部を詰めています。価格が確定次第募集を開始します。

編集後記 京都議定書発効1周年の記念すべき年に市民共同発電所の第1号が誕生したことが、当会の活動にとって大きな弾みになるようお願いしている。◇偶然目にした1922年に発刊された小説「空中征服」(賀川豊彦著)に、「あの煙突と煤煙を持っているは・・・大阪の児童は蔭ぼうしで育ったえんど。背は高いが身は入っていない」「煙を出さなくても、水力で機械を廻し」「エネルギーが無闇に浪費せられている。算盤文明の最後は哀れ」「煤煙禁止運動の宣伝を家庭にひろめ」と書かれている。◇それから84年後の今日、「煙をCO2に、石炭から自然エネルギーへの転換に」と読み替えればそのまま温暖化防止活動。◇このニュースレターの情報が50、100年後の子ども達にとって大きなプレゼントになることを願っている。◇今号の編集にあたりバイオマスエネルギーについて無知な私は、一時は私の知識不足という煤煙で窒息するのではと心配したが、知識を豊かな会員、編集委員の皆様のご絶大なるご支援で救われた。この場を借りてお礼申し上げる。(大谷恒夫)

(編集委員：大崎義治、大谷恒夫、尾形祥子、三澤友子)